

令和5年度 第1回国分寺市介護保険運営協議会 会議録

令和5年6月6日（火）

午後7時～午後8時2分

いずみプラザ 講座室

協議会次第

1 開会

2 議題

- ①国分寺市高齢者保健福祉計画・第9期国分寺市介護保険事業計画策定に向けた各種基礎調査の結果報告書（案）について（資料1～6）

3 報告

- ①令和4年度国分寺市介護保険運営協議会活動報告書について（資料7）
②令和5年度国分寺市介護保険運営協議会活動計画書について（資料8）
③その他

4 閉会

出席者等（敬称略）

会 長…… 橋本 正明

副会長…… 本多 勇

委 員…… 林 博巳, 升田 範夫, 森 弘達, 分部 文恵, 富樫 美紀,
鈴木 美重子, 八木 亜希子, 清水 桂司, 前出 禎造, 北邑 和弘,
奥山 尚, 富井 友子

事務局…… 福祉部長（玉井），高齢福祉課長（澤田），地域包括ケア担当課長（戸部），計画・事業推進係長（佐瀬），計画・事業推進係（杉本），計画・事業推進係（大嶽）

1 開会

○事務局より

・森委員，分部委員，富樫委員，北岳委員はオンラインでの出席。

（なお，会議開始から終了まで，オンライン出席者の映像と音声即時に全ての委員に伝わり，委員相互に円滑な意見交換等ができる状態であった。）

2 議題

①国分寺市高齢者保健福祉計画・第9期国分寺市介護保険事業計画策定に向けた各種基礎調査の結果報告書（案）について

計画・事業推進係 大嶽… 国分寺市高齢者保健福祉計画・第9期介護保険事業計画策定に向けた各種基礎調査の結果報告書（案）について，御説明いたします。前回，2月28日開催の介護保険運営協議会でも御報告いたしました。今年の2月に各種基礎調査を実施いたしました。その集計と結果報告書の案が一部まとまりましたので，御説明いたします。

資料1は，各種基礎調査の配布数及び回収数の一覧です。配布数の合計は5,984件でした。有効回収数は，郵送が3,276件，インターネットが316件，合計で3,596件となりまして，有効回収率は60.1パーセントでした。前回調査時の有効回収率は68.2パーセントでしたので，およそ8ポイント低下したことになります。回収率が下がった要因の一つとして考えられるのが，調査を行った2月頃に連続強盗事件があり，犯罪グループがアンケートを装って個人情報を集めているという報道が多くなされていた時期でした。この報道を受けて，今回の各種基礎調査についても不安に思われた方が多くいたようで，「この調査は本当に国分寺市が行っているものなのか」とお問合せをいただいたことも複数ありました。しかしながら，およそ6割の方に回答をいただきましたので，多くの方に御協力いただけたものと考えております。

資料2から資料6までにつきましては，各種基礎調査のうち，介護予防・日常生活圏域ニーズ調査と在宅介護実態調査以外の5つの調査の結果報告書（案）となります。全て御説明しますと時間がかかってしまいますので，前回の調査と比較して10ポイント以上の増減があった項目を中心に，各調査2，3か所ずつ御説明いたします。

まず，資料2の施設等利用者及び家族状況調査の7ページを御覧ください。施設等に入所（入居）した主な理由について複数回答で調査したのようになりますが，グラフの上から2番目の「一人で住むには不安があるから」が61.7パーセントと，前回と比較して13.4ポイント増加しています。

併せて16ページの調査結果も御覧ください。16ページにつきましては，入所（入居）前の家族構成について調査をしたものですが，入所（入居）

前の家族構成が「ひとり暮らし」であったという方が56.3パーセントと、前回と比較して21.8ポイント増加している一方で、「家族と同居（子どもと同居等）」が19.5パーセントと、前回と比較して19.8ポイント減少しております。

入所前の家族構成がひとり暮らしだった方が、今回のアンケートの回答者に多く含まれていたことから、先ほど御説明した7ページの施設等に入所した主な理由の設問で、「一人で住むには不安があるから」という回答を選んだ割合が増えたのではないかと推測されます。

7ページにお戻りいただきまして、グラフの下から6番目の「ご本人が現在の施設等への入所（入居）を希望したから」という回答が23.4パーセントと、前回と比較して11ポイント増加しています。

併せて25ページを御覧ください。最終的に暮らしたい場所についての質問になりますが、「現在の施設等で介護や治療を受けながら暮らしたい」が82.8パーセントと、前回と比較して5.6ポイント増加している一方で、「自宅で医療や介護を受けながら暮らしたい」が3.1パーセントと、前回と比較して8.6ポイント減少しております。

一概には言えませんが、施設に入所している高齢者の方につきましては、自宅に住み続けたいと考えていたり、最終的に自宅で暮らしたいと考えていたりする方は減ってきているのではないかと推測されます。

続きまして22ページ、日頃の楽しみについて複数回答で調査したものです。グラフの上から3番目の「家族や親族との団らん」が30.5パーセントと、前回と比較して19.2ポイント減少している一方で、上から6番目の「趣味や学習活動」が18.8パーセントと、前回と比較して12.6ポイント増加しています。新型コロナウイルス感染症の流行の影響で、入所者と家族などとの面会が制限されていることから、「家族や親族との団らん」を選択した割合が減少した一方で、入所者だけでも楽しむことができる「趣味や学習活動」と回答した割合が増加したのではないかと推測されます。このことは、グラフの上から4番目の「施設等職員との団らん」を回答した割合が、前回と比較してほぼ変わらないことからもうかがえます。

次に、資料3の介護保険事業者調査です。9ページをお願いいたします。利用者の人権を擁護するために講じている取組について複数回答で調査をしたものです。ほぼ全ての取組で前回より回答率が上がっており、特にグラフの一番上「認知症、高齢者虐待防止等に関する研修を実施したり、外部研修へ参加をしている」、上から5番目「虐待防止等に関して事業所全体の方針を設定し、管理者の責任を明確にしている」、そのすぐ下の「虐待防止委員会等や相談窓口を設置し、担当者等を決めている」、さらに、その3つ下の「事業所の情報公表を進めている（福祉サービス第三者評価

等の利用)」の4項目については、前回調査よりそれぞれ10ポイント以上増加しています。

続きまして11ページ、感染症の伝播に対する予防策について複数回答で調査したのですが、グラフの上から3番目の「職員への利用者の感染状況に関わる情報提供」が82.9パーセントと、前回と比較して11.8ポイント増加しています。こちらの設問は、ほぼ全ての予防策で講じられている割合が増加しており、新型コロナウイルス感染症の流行を契機に、介護保険事業者が感染症対策を強化したことがうかがえます。

12ページをお願いいたします。大規模災害の被害を最小限に止めるための取組について複数回答で調査したのですが、グラフの一番上の「避難計画・方針の策定」が70.6パーセントと、前回と比較して12.3ポイント増加し、その3つ下の「災害発生時のサービス提供再開に向けたマニュアル等の作成」が55.3パーセントと、前回と比較して10.9ポイント増加しています。こちらについては、令和5年度末で事業所でのBCP（事業継続計画）の策定の義務化の経過措置が終了になることから増加したものと推測されます。

13ページは利用者やその家族からの苦情・相談内容について複数回答で調査したのですが、グラフの一番上の「説明・情報の不足」が45.9パーセントと、前回と比較して15.3ポイント増加しています。新型コロナウイルス感染症流行の影響で、事業者と家族が直接会って情報交換を行ったり、利用者が介護サービスを利用している状況を家族が見たりする機会が減少したことから、説明や情報の不足を感じた家族が多かったのではないかと推測しています。

次に資料4、介護支援専門員調査です。8ページの(12)、介護支援専門員としての就労意向について調査をしたものです。介護支援専門員に関する仕事を「続けられるかぎり」続けたいという回答が47.1パーセントと、前回と比較して11ポイント増加している一方で、「わからない」は25.7パーセントで、前回と比較して16.9ポイント減少しています。

12ページ、供給が不足していると感じられるサービスについて複数回答で調査したのですが、グラフの一番上「通所リハビリテーション」は、前回調査とほぼ同じ回答率となっており、依然として供給が不足していると感じている方が多いということがうかがえます。一方で、「認知症対応型共同生活介護」や「小規模多機能型居宅介護」は、前回調査と比較して、どちらも10ポイント以上減少しています。これらのサービスは、国分寺市では第5期介護保険事業計画ころから每期1事業所ずつ整備してきたこともあり、不足しているという意見が減ったのではないかと推測しています。

15ページ、在宅生活を送る上で必要と思われるサービスや支援内容について複数回答で調査したのですが、グラフの一番上の「外出の付き添い」が51.4パーセントと、前回と比較して14.2ポイント減少しており、グラフの下から5番目の「買い物の支援」につきましても10パーセントと、前回と比較して22.8ポイント減少しています。こちらも、新型コロナウイルス感染症の流行の影響で外出の機会が減少したこと、また、買い物の支援については、インターネットによる食事や日用品の購入が、より一般的になったことが減少の要因ではないかと推測をしています。

35ページ、かかりつけ医や歯科医との連携方法について複数回答で調査したものです。グラフの上から4番目の「事前に時間調整を行い、かかりつけ医や歯科医（病院・診療所）を訪問して面談している」が30.5パーセントと、前回と比較して10.4ポイント減少している一方で、そのすぐ下の「電話で連絡を取り、面談はしていない」が27.1パーセントと、前回と比較して15.7ポイント増加しています。こちらについても、新型コロナウイルス感染症の流行の影響で、病院などでは面会制限を行ったところも多かったため、面談ではなく電話にて連携を図ったと推測されます。

次に資料5、介護職員等調査です。16ページは現在の仕事の満足度について調査したのですが、「どちらかという満足している」が55.1パーセントと、前回と比較して11.1ポイント増加している一方で、「やや不満である」は13.0パーセントと、前回と比較して10ポイント減少しています。この調査では、別の設問で介護に関する仕事の就労意向についても尋ねており、「続けられるかぎり」という回答が前回と比較してわずかに増えていることから、今回の調査に回答した介護職員については、仕事にある程度満足しており、その仕事を長く続けたいと考えている方が多いことがうかがえます。

資料6の住宅型有料老人ホーム・サービス付き高齢者向け住宅調査については、前回と大きく変わったところはありませんでした。

議題についての御説明は以上となります。各種基礎調査の結果報告書（案）を御覧いただきまして、9期計画の策定に当たってお気づきの点などがありましたら、御意見をいただければと思います。よろしく願いいたします。

橋本 会長… 以上、御説明いただきました。やはりコロナの影響があちこちで出ているかなということが印象的でありました。委員の皆様から御質問や御意見があれば頂きたいと存じます。

升田 委員… 資料1について、調査の有効回収率は合計で約60パーセントとのことですが、住宅型有料老人ホーム・サービス付き高齢者向け住宅調査は、前回調査では9件全部の回答があり100パーセント、しかし今回は4件から

しか回答がありませんでした。これはコロナの影響というよりは別の要素があるのかなと思うのですが、この点については何かりカバリーはできなかったのでしょうか。

佐瀬 係長… 確かに前回の住宅型有料老人ホーム・サービス付き高齢者向け住宅調査は、9件に送付して9件とも回答いただきましたが、今回は9件中4件から回答いただきました。回収率で見ると44パーセントですが、どうしても母数が少ないため回収率が半分以下になっております。各種基礎調査については、この調査に限らず、調査対象者に礼状兼督促のはがきを送っており、それ以上催促するのも難しいこともあり、こういう結果になってしまったということなのです。

橋本 会長… 住宅型有料老人ホームとサービス付き高齢者向け住宅ではちょっと性格が違いますが、4件の回答の内訳はわかりますか。

計画・事業推進係 大嶽… 資料6の住宅型有料老人ホーム・サービス付き高齢者向け住宅調査の3ページ、「施設・住宅の概要」に施設や住宅の種別についての設問があります。住宅型有料老人ホームが1件、サービス付き高齢者向け住宅が3件の計4件という内訳になっています。

橋本 会長… 升田委員、いかがでしょうか。

升田 委員… 個人の回答が減ったのは致し方ないかと思いますが、事業所に対しては、いわゆる行政指導とまではいかないでしょうけれど、もっと協力をお願いしてもよいのではないかなと個人的には思っています。それが市としてできないのかもしれませんが。

橋本 会長… 前回調査では9件全部回答してくださいましたから、今後の課題として事務局は承知をしていただければということで、結果でありますから。

升田 委員… はい、お願いしたいと思います。

前出 委員… 御説明いただいた箇所ではないのですが、前もって資料を拝見させていただいて、私が一番驚いた部分は介護支援専門員調査の3ページの年齢についての設問です。介護支援専門員の年齢層が、前回調査だと40代と50代がほぼ同じぐらいの割合だったのが、今回調査では50代が55.7パーセントで非常に増えています。何か原因があったのか、それとも若い人がなかなか介護職に行かないのか、その辺りの事情はいかがなのでしょう。

橋本 会長… 前回調査から3年たっていますので、そういうこともあるかと思えます。事務局では何か気づかれるようなことはありますか。

佐瀬 係長… 年齢層については、私たちよりも現場にいらっしゃる委員の皆様のほうが実感としてお持ちではないかと思いますが、いかがでしょうか。

橋本 会長… 同じページに調査結果が掲載されていますが、業務経験年数でいうと、今回調査では「5年以上」の方が増えていますね。いかがでしょうか。鈴木委員、八木委員、何かお感じになるところはありますか。

鈴木 委員… 私は介護支援専門員ではないのですが、定着率が悪いというか、割と異動することが多くて、経験年数のうち、現在の事業所にずっと在籍しているかどうかは定かではない、すなわち1か所とは限らないと思います。

橋本 会長… そうですね、業務経験年数としては少し伸びているということではあります。事業所は同一かどうか分からないということはあると思います。

八木委員、何かお感じになることはございますか。

八木 委員… 私もこのデータを拝見して、こんなにも顕著に表れている理由を考えたのですが、居宅介護支援事業所に主任介護支援専門員を配置しなければならないということもあり、今は移行措置期間でいなくても大丈夫という事業所もあります。後々はやはり、そのような年齢層、経験のあるケアマネジャーを配置するという背景もあるのかなと思います。

また、鈴木委員もおっしゃっていたように、介護の現場そのものの若い方の定着率、やはりお給料の面ですとか、仕事内容のところでも、まず介護の経験等があってケアマネジャーという資格が得られるようになりますので、若い方にまず定着していただかないと取れない資格というところが必然的に年齢が上がってしまう要因ではないかとは思っています。

橋本 会長… ケアマネジャーの採用が大変だという話は耳に入っているところですが、人材を養成する学校関係側として、本多副会長、富井委員、何かお感じになることがありますか。

富井 委員… 先ほど八木委員がおっしゃっていたとおり、ケアマネジャーについては受験するまでに基礎的な経験が必要だということもありますが、今回のこの調査全体を拝見していても、給与面での意見がすごく顕著に表れていたと思います。介護支援専門員調査でも介護職員等調査でも、働く上での不安や悩みについての設問で一番多かった回答が給与面についてで、およそ半数の方がそのように回答しております。また、処遇改善について、例えば介護保険事業者調査の17ページには、基本給アップや賞与アップ等の「予定なし」が3割や5割という結果が出ていて、介護職員等調査の同じ設問でも割合が同じくらいでした。やはり事業者側も受け取っている側も、双方で感じているところを見ると、今後の人材は本当に厳しい状況になると思っています。

できれば介護職員等調査の30代、40代の方の回答について、その方たちがどのような職種で、どのような環境を望んでいるのかということと、もう一方で、ヘルパー不足ということも多く聞きますので、ヘルパーの方の回答を抽出して、人材確保について少し分けて分析されたほうがいいのかないかなと思いました。

橋本 会長… そうですね。本多副会長、いかがですか。

本多 副会長… 御指摘の職員の高齢化が進んでいるという状況です。私は富井委員

と違って通信教育部なので、社会人の方が転職や社会福祉の資格を取るため学びに来るのですが、今年は昨年に比べて学生が減りました。やはり社会全体の社会福祉に向けるまなざしというのが、一部熱意を持っておられる方はいるのですが、社会福祉をやってみようかなと思って来る人はなかなか厳しい状況があるのだと思います。それは多分、若い学生を見てもそういう状況で、そもそも子どもが少なくなっている状況もありますので、その中において介護の仕事や、広げていくと高齢者介護だけでなく、障害者支援や児童養護の領域、さらには保育も含めて、なかなか厳しい状況が続いているのだと思います。

昨日、神奈川県で高齢者施設を運営する社会福祉法人の理事会に参加させていただいたのですが、辞めていく人がいるものの、新規採用が厳しいというのはどこの現場でも言われているところで、多分皆様方のところもそうなのだと思います。なかなか厳しい状況が続いていて、施設介護のところでも何とかパートや人材派遣で穴埋めをしている、今まで対応していなかったけれど外国の介護のスタッフの方の確保に向けて歩を進めるかどうか悩んでいるといった話も聞きます。地域においても、学校においても、現場においても、なかなか厳しい状況があるということが伝わってきます。高齢者は増えていくのに、介護するスタッフも高齢化して現場の仕事は増えていく状況も続くのだろうなという気はしています。

ケアマネジャーも介護の経験がなければ試験を受けられないですし、介護の仕事に来てケアマネジャーの試験を受けようと思わなければ受けませんから、その辺りの厳しさは考えても考えても答えが出ません。

橋本 会長… 介護支援専門員調査だけではなく、全般的なことで、現場の御感想として清水委員から何かございますか。

清水 委員… 介護職員に対しては処遇改善で加算が設けられて給与アップという良い傾向があります。資料5の介護職員等調査の14ページに、令和4年中の収入についての調査結果がありますが、「400万円から500万円未満」の割合が前回調査より8パーセントほど伸びていますから、一定の経験を有している人については、処遇改善の取組が効いて、かなり収入がアップしているはずです。

一方で、ケアマネジャーになるには、介護福祉士の資格を取得してから実務経験5年を要します。一定のキャリアを有している人がケアマネジャーになろうと思っても、ケアマネジャーで働いて得る給料より介護職のほうが給料がよくなっているという逆転現象が起きているため、ケアマネジャーになりたがらない、あるいはケアマネジャーになったけれども介護職に戻るといったこともあります。また、40代ぐらいの人は家庭でお金がかかる時期でしょうから、現実的にもケアマネジャーよりは介護職で、

しかも夜勤で働けばもっと収入が上がっていくというようなことも作用して、こういった現象になっているのかなと思います。

年齢のこともありますが、そもそもケアマネジャーのなり手が減ってきていて、居宅の事業所は苦戦しているということをよく聞きます。介護職にとって良い取組だったものが、ちょっと全体のバランスを欠くようなことが生じてきているので、もう一步踏み込んだ対応がこれから制度としてできるのか、又はそれぞれの居宅の事業所が自分たちの力でそこを補っていくのかということが今、起きようとしていると思っています。

林 委員… ケアマネジャーのことはそんなに詳しくはないのですが、個人的な話で恐縮ですが、今、妻が介護職員初任者研修を受講しています。私は若い頃ヘルパー2級の資格を取ったのですが、現在は2級はなくなって初任者研修になったと思います。それで初任者研修の講習の内容を見たら、ケアマネジャーの試験と同じぐらい難しい印象を受けました。

それから推測にはなりますが、ケアマネジャーの試験がすごく難しくなっているということはないのでしょうか。それはケアマネジャーに求めるものがどんどんレベルアップして、それに追いつくように、そういう人を育てたいがために問題を難しくしているのかもしれませんが、これを受ける人が本当に少なくなるのではないかなと思うぐらいに難しい。

だからケアマネジャーになることは、若い人にとってみれば、なかなかハードルが高いのではないか。だから若年層が減っているのではないかと推測したのですが、実際はどうなのでしょう。あまり関係ないですか。

清水 委員… 簡単ではないですね。介護福祉士や社会福祉士の試験は問題数が多いので多少間違えてもリカバリーがききますが、ケアマネジャーの試験は問題数が少ない中で確実に解答しないといけないので、しっかりした知識が求められます。それから、ケアマネジャーは更新制で、研修が定期的にあります。そのため、資格を取得しても、更新しないで失効させてしまっている人もちらほらいるので、そのような持続の難しさや大変さもあるかもしれません。

橋本 会長… ケアマネジャーは資格ではないのですが、実務研修を受けるための試験があります。また、社会福祉士、介護福祉士、精神保健福祉士と比べて合格率が低くなっています。

林 委員… 求められているものが多いのですか。

橋本 会長… 介護福祉士や社会福祉士、精神保健福祉士は合格率が上がってきているのですが、ケアマネジャーについては、まだそこまで行っていないし、試験よりも受験資格を満たすのが大変です。ケアマネジャーになった後の研修も、ほかの国家資格は1回取れば国家資格なのですが、ケアマネジャーは研修を受講しないと仕事ができないのですよね。最初に初任者研修があ

り、5年たつと更新するのですが、これがお金も時間もかかってとても大変です。一般的にケアマネジャーの資質が低いとか悪いとか言われていることが、このような制度に反映されているのだと思います。資質が悪ければ、研修して資質を上げなければいけないという、負のスパイラルみたいなことがあるかなと思ったりもします。皆さんの要求が非常に高くなってきているから、何でもそうですが、やはり現場で働く人は本当に大変な思いをしているということかもしれないし、結果的にはサービスが十分に行き届かなくなってしまうと、これは国のレベルの話になりますが、本当につらいですね。

林 委員… やはり報酬をもう少し上げるとか、何か手当をしないといけませんね。
橋本 会長… そうですね、それはありますね。報酬もありますが、私が思うのは、報酬は一部で、なぜ皆さんがこの仕事に就いていただけるかということ、やはり人のケアをして自分自身の満足感とか、良かったと思えること。なぜそう思えるかということ、やはり利用者の方からの感謝だとか、そういうことだと思います。

それから、職場の人間関係ということもよく話に出てくるのですが、仕事がきついと、やはりそういうことも厳しくなってしまうところがあるかもしれません。常に人手不足ですから、ギスギスした職場になる可能性もありますよね。構造的にやはり人が減ってきているわけですから、何とも言いようがありませんが。

ちょっと話は飛びますが、外国人介護士というのは一つの大きな、これからの人的資源になっていくと思います。多分、チームで仕事をする施設ではある程度増えていくと思いますが、ケアマネジャーやヘルパーはなかなか難しいというのが私の感想です。

多分現場の方も同じように思っておられると思います。お金のことも大事ですが、それだけではないのですよね。だから社会全体や、御家族や利用者の方で盛り立ててあげるといいのではないかなと、実はすごく思っています。

林 委員… やる気や気持ちだけでは、今の若い人には特に難しいのではないかなと。
橋本 会長… そうですね、社会も利用者の方も評価してあげることがとても大事ではないかなと思います。委員には大学の先生方がいらっしゃるんですが、やはり福祉系の人材、受験者が減ってきてしまっていますよね。人が集まらないので募集を行わない大学もあると聞いています。とてもつらいですね。

ちょっと雑談的なことになってしまいました。そのほか、全体的にこの調査結果で御感想でも、御質問でも結構です。基本的にこの調査結果をベースにして次期の計画を立てていくということになるかと思っています。

升田 委員… 今回たまたま、私にアンケートが送られてきました。実は前回は送られ

てきたので今回が2回目で、回答するときはこのアンケートがどのように使われるのかなというのがありました。回収率を上げるためには、何らかのフィードバックができないかなと思いました。民間のアンケートでは希望すると本人に結果を返してくれることが多いです。インターネット上で受け取れるようにするとか、全体にフィードバックしていくというのが望ましいでしょう。

もう1点は、今回の調査結果について先ほど説明がありましたが、こういう状況の中でこういう結果でしたというような、編集後記のようにコメントをつけて、アンケートの後ろのほうに掲載する。アンケートに答えたことに対して何らかの反応があると、次回皆さんが協力してくれる。

次回アンケートの際は、最初から、今回の結果についてはフィードバックしますということを示すと、回答しようかなと思う人が増える。特に法人の場合だったらそうではないかなと思います。

橋本 会長… フィードバックといいましょうか、回答していただいた方、市民の方にどのように調査結果を返していくかということですね。事務局、それについて少しお話しくさいますか。

佐瀬 係長… どのように結果をお返すするかというところですが、こちらの調査自体が無記名で行っているので、直接お返すことができません。

升田 委員… 民間のアンケートも無記名ですが、希望して自分のメールアドレスや住所を入力しておくところに返してくれる、本人の意思で返しているという方法を取っています。

佐瀬 係長… 今回どのようにフィードバックするかという話にはなりますが、基本的には市のホームページに結果を公表するということになります。

升田 委員… ですから、市のホームページのここに、いつ頃出ますよとか、そういう連絡でもいいと思うのですよ。

橋本 会長… 市報には調査結果は載らないのですか。

佐瀬 係長… 市報には、計画案が完成したタイミングでパブリック・コメントを行うという記事を掲載予定です。そちらは、アンケートの回答結果を基にした計画案がこうなりましたというお知らせです。アンケートの結果集計が完了したという記事を掲載する予定は今のところありません。

橋本 会長… 結果としてできる計画は報告書もしっかり公表いたしますが、今の升田委員の御発言については、御検討いただいてみてはどうでしょうか。ホームページでの公表というのは十分ではないのではないかなと私は思います。やはり紙媒体で、しかも要約版ですよね。今の御発言の中から、次の調査への影響も考えて事務局に御検討をいただければと思います。無記名ですから、個人宛てというのはとても難しいですね。

佐瀬 係長… 例えば市のツイッターもありますので、ツイッターがどのくらい見られ

ているかというのもあるのですが、発信できる手段で、結果ができましたよというお知らせをするということと、次回以降、フィードバックの方法をもう少し検討する必要があるのかなというところでは、

森 委員… 回収率を上げていくというところでは、個人、利用者や保険者は必要かなと思いますが、事業者のほうはもう少し行政から働きかけてはどうかという御意見が先ほどありました。また、人手不足の事業所が多いというお話もありました。私は大学に勤めているのですが、やはり教育の分野も調査が非常に多くて、ただでさえ人手不足のところで、アンケートや調査が山のように来て、これがまた仕事が回らなくなるということがあります。こういう政策や施策や計画を作るために、アンケートというのは現場の声を吸い上げる意味では非常に重要なのですが、逆に言うと、現場で人手不足が深刻な中で調査を徹底していくことは非常に難しいところがあります。短時間で答えられる、重要なところだけ聞くなどの工夫が必要ではないかと思います。行政指導や法的義務みたいになると現場は干上がってしまうかなという気がします。

橋本 会長… 非常に示唆的なお話でありました。事務局も次回調査の検討のポイントにさせていただきたいと思います。

本多 副会長… 丁寧な前半の説明もありがとうございました。この調査結果を大きく公表しないのであれば、先ほど御説明いただいたように、3年前と今回とで国分寺市の介護の状況がどのように変わったか、プラスもマイナスもあると思いますが、それをサマリーみたいな、トピックみたいな形にしてお伝えする、公表するというのが良いのではないかと思います。

調査項目の中に、行政に対する意見や要望もありますが、職員の方やケアマネジャーの方が働く中で満足感を得られたことを答えていると思います。プラスの印象があるようなところも広報していただけると、そういう仕事をしてみようかなというところにももしかしたらつながるかもしれないので、それは伝えていただいたら良いのではないかと思います。

全体的には介護保険制度は、人手不足などいろいろあっても、基本的には相当安定している制度なのだなというのが、プラスもマイナスも含めて伝わってきました。もしトピック的に市民の方に公表するのであれば、この3年間でこんなふうに変ったということと、グッドなニュースを公表していただけるといいなと思って聞いておりました。

橋本 会長… 大変前向きな御発言です。この調査は計画策定のためですが、使い方についていろいろ考えて、公表の方法も今の御発言なども踏まえて少し御検討されたいかがかなと思います。

そのほか、いかがでしょうか。奥山委員、何かございませんか。

奥山 委員… 私が気になったのは、施設等利用者が最終的に暮らしたい場所は、現在

の施設という方が増えているというのは、施設が住みやすいということで、自宅で介護を受けながら暮らしたいという方が一定数いるのかなと思ったのですが、ほとんどいませんでした。もちろん施設に入っていられる方の調査ですから、自宅にいられる方の調査であれば逆の結果かなとは思いますが、ほとんどいないというのは、そうなのだと改めて思ったところです。

橋本 会長… そこも非常にポイントですね。流れとしては在宅で生活できるようにと
いうのですが、実際にはそこで生活できなくなるとどうなるのか。

奥山 委員… そうなると、在宅ばかりではなくてやはり施設も充実させて、しかも、
そこで最後まで暮らしたいと思えるような施設を増やしていただければ良
いなと思います。

橋本 会長… ありがとうございます。そのとおりだと思います。ほかに御発言はござ
いませんか。よろしいでしょうか。

調査の結果の報告、大変に興味深い結果が出たかと思えます。この結果
をうまく市民に伝えて、効果を上げて、計画だけでなく、人材のこともあ
るかと思えますし、いろいろな目的で使っていただければということをご
この議論ではさせていただきました。ありがとうございました。

3 報告

①令和4年度国分寺市介護保険運営協議会活動報告書について

橋本 会長… 報告の1番目、令和4年度国分寺市介護保険運営協議会活動報告書につ
いて、事務局、御説明をお願いいたします。

計画・事業推進係 大嶽… 令和4年度国分寺市介護保険運営協議会活動報告書について御報告いた
します。資料7をお願いいたします。こちらは前回、令和4年度第5回介
護保険運営協議会でお示したもので、前回からの変更点は、表紙の「活
動報告書（案）」の「（案）」を削除し、9ページの下の部分の第5回運
協の協議内容等を追記しています。

また、7ページから9ページまでの「令和4年度国分寺市介護保険運営
協議会活動概要」につきまして、各回で出された議題や報告に対して、委
員の皆様から御意見が出たことについての記載がないという御指摘を前回
の介護保険運営協議会でいただきました。このことを受け、御意見をいた
だいた項目については「意見を述べました」という記載を追記いたしまし
た。活動報告書については、令和4年度の活動概要を記載するものと考え
ており、御意見の具体的な内容については、各回の会議録を御確認いた
だくということで御了解いただければと考えております。御報告は以上とな
ります。

②令和5年度国分寺市介護保険運営協議会活動計画書について

橋本 会長… 報告の2番目、令和5年度国分寺市介護保険運営協議会活動計画書について御説明ください。

計画・事業推進係 大嶽… 令和5年度国分寺市介護保険運営協議会活動計画書について御報告いたします。資料8を御覧ください。こちらは、前回の介護保険運営協議会で御承認いただいたものになります。先ほどと同様に、表紙の「(案)」を削除した以外は変更ございません。御報告は以上です。

橋本 会長… 昨年度の報告と今年度の計画で何か御質問はございますか。よろしければ、御報告でありますので承ったということにさせていただきたいと存じます。

4 閉会

橋本 会長… それでは、よろしければこれで今年度第1回の運営協議会を閉会としたいと思います。ありがとうございました。